

IMPOSSI-

BLE ARCHI-

TECTURE

インポッシブル・アーキテクチャー

もうひとつの建築史

2019年4月13日（土）～7月15日（月・祝）

新潟市美術館

要約：20世紀初頭からの100年にわたる「建たなかった」建築を、国内外に所蔵される図面・模型・映像など約190点を通じて紹介します。遠い未来への夢や、鋭い批評精神の表現、そして技術的には可能であったにもかかわらず、様々な社会的条件によって実施できなかった建築など、実現しなかった構想の数々から、逆説的に「建築」の可能性が浮かび上がります。【167字】

建築の歴史を振り返ると、完成に至らなかった素晴らしい構想や、あえて提案に留めた刺激的なアイデアが数多く存在しています。未来に向けて夢想した建築、技術的には可能であったにもかかわらず社会的な条件や制度によって実施できなかった建築、実現よりも既存の制度に対して批評精神を打ち出す点に主眼を置いた提案など、いわゆるアンビルト／未完の建築には、作者の夢や思考がより直接的に表現されているはずです。

この展覧会は、20世紀以降の国外、国内のアンビルトの建築に焦点をあて、それらを仮に「インポッシブル・アーキテクチャー」と称しています。ここでの「インポッシブル」という言葉は、単に建築構想がラディカルで無理難題であるがゆえの「不可能」を意味しません。言うまでもなく、不可能に眼を向ければ、同時に可能性の境界を問うことにも繋がります。

建築の不可能性に焦点をあてることによって、逆説的にも建築における極限の可能性や豊穡な潜在力が浮かび上がってくる——それこそが、この展覧会のねらいです。約40人の建築家・美術家による「インポッシブル・アーキテクチャー」を、国内外に出品を仰いだ図面、模型、関連資料などを通して読み解きながら、未だ見ぬ新たな建築の姿を展望します。

● 展示構成

* 主な出品予定作家（アルファベット順）

会田誠、安藤忠雄、荒川修作+マドリン・ギンズ、アーキグラム、ヤコフ・チェルニホフ、ヨナ・フリードマン、藤本壮介、マーク・フォスター・ゲージ、ピエール＝ジャン・ジルー、ザハ・ハディド・アーキテクツ+設計JV（日建設計、梓設計、日本設計、オーヴ・アラップ・アンド・パートナーズ・ジャパン設計共同体）、ジョン・ヘイダック、ハンス・ホライン、石上純也、磯崎新、川喜田煉七郎、菊竹清訓、レム・コールハース/OMA、黒川紀章、ダニエル・リベスキンド、前川國男、カジミール・マレーヴィチ、ルートヴィヒ・ミース・ファン・デル・ローエ、村田豊、長倉威彦、コンスタン（コンスタン・ニーヴェンホイス）、岡本太郎、セドリック・プライス、エットレ・ソットサス、スーパースタジオ、瀧澤真弓、ウラジーミル・タトリン、ブルーノ・タウト、ジュゼッペ・テラーニ、山口晃、山口文象（岡村蚊象）

* 出品点数：図面・模型・写真・映像・書籍など、約 190 点（予定）

* 以上のうち、次の人々には新潟とのゆかりがあります。

- ・ 会田誠 | 1965～ | 新潟市生まれ、本展に「シン日本橋」「東京都庁はこうだった方が良かったのでは？の図」を出品。
- ・ 菊竹清訓 | 1928～2011 | 1967年竣工の佐渡グランドホテルは代表作の一つ。
- ・ 黒川紀章 | 1934～2007 | 新潟県内に作品 5 件（吉運堂本社〔新潟市南区〕、同新発田店、同柏崎店、同ストーンミュージアム〔新潟市南区〕、新潟美咲合同庁舎 1 号館）がある。
- ・ 村田豊 | 1917～88 | 新潟市生まれ、旧制新潟中学卒。坂倉準三、ル・コルビュジエに師事。空気膜構造の国際的先駆者。磯崎新が「夢想する技士」と讃えた。会期中、長女・あがさん〔跡見学園女子大学教授〕の講演を予定。
- ・ 前川國男 | 1905～86 | 父の赴任先である新潟市で生まれる。新潟市美術館は晩年の作品。本展出品「帝室博物館建築設計図案懸賞応募案」は近代建築史上の伝説にして、初の模型化。会期中、模型制作監修者・松隈洋さん〔京都工芸繊維大学教授〕の講演を予定。

● 関連イベント *いずれも会場：新潟市美術館 講堂（聴講無料、先着 80 名）

（1）シリーズレクチャー「もうひとつのモダニズム」 *各日とも午後 2 時～（約 90 分）

・ 第 1 回「前川國男の戦前期のコンペ応募案をめぐって」

月日：2019 年 4 月 14 日（日）

講師：松隈洋さん（京都工芸繊維大学教授）

・ 第 2 回「父・村田豊の建築」

月日：2019 年 4 月 28 日（日）

講師：村田あがさん（村田豊長女、跡見学園女子大学教授）

・ 第 3 回「もうひとつの東京オリンピック」

月日：2019 年 5 月 12 日（日）

講師：藤井素彦（新潟市美術館学芸員）

・ 第 4 回「アンビルト概説ーロシアを中心に」

月日：2019 年 6 月 22 日（土）

講師：前山裕司（新潟市美術館館長）

（2）みどころ解説「なぜ建物は建たなかったのか」 *各日とも同内容、午後 2 時～（約 60 分）

講師：藤井素彦（新潟市美術館学芸員）

日時：2019年4月21日（日）、5月26日（日）、7月7日（日）

●開場式

日時：2019年4月12日（金）午後2時～

会場：新潟市美術館

●開催概要

- 名 称 インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史
*サブタイトルは割愛可です。
- 会 期 2019年4月13日（土）～7月15日（月・祝）
*展示替あり 前期：～5月26日（日）、後期：5月28日（火）～
- 休 館 日 月曜日、5月7日（火） *祝日（4月29日、5月6日、7月15日）は開館
- 開館時間 午前9時30分～午後6時（券売は閉館30分前まで）
- 観 覧 料 一般1000円（800円）、大高生800円（600円）
*（ ）内は20名以上の団体、およびリピーター割引料金
*中学生以下無料
*障がい者手帳・療育手帳をお持ちの方、および一部の介助者は無料（受付でご提示ください）
- 主 催 新潟市美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会
- 共 催 TeNY テレビ新潟
- 監 修 五十嵐太郎
- 協 賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜
- 協 力 Estate of Madeline Gins / Reversible Destiny Foundation
- 後 援 公益社団法人 日本建築家協会 関東甲信越支部 新潟地域会、
一般社団法人 新潟県建築事務所協会、
一般社団法人 新潟県建築士会

お問い合わせ先：新潟市美術館（担当：藤井）

〒951-8556 新潟市中央区西大畑町5191-9 TEL：025-223-1622 FAX：025-228-3051

E-mail：museum@city.niigata.lg.jp

●広報用画像 *以下はキャプション一覧、図版は次ページ

01：映像制作・監督：長倉威彦、CG映像：アンドレ・ザルジッキ／長倉威彦／ダン・ブリック／マーク・シッチ、《ウラジーミル・タトリン「第三インターナショナル記念塔」（1919-20年）》、コンピューター・グラフィックス、1998年

*↓ 長くて入らない場合は、次でも可

映像制作・監督：長倉威彦、CG映像：マリオス・クリストドリデス、長倉威彦《ウラジーミル・タトリン「第三インターナショナル記念塔」（1919-20年）》1998年

02：ヤーコフ・チェルニホフ、書籍『建築ファンタジー 101のカラー・コンポジション、101の建築小図』より挿図、1933年、個人蔵

03a, 03b：村田豊《ソビエト青少年スポーツ施設》模型写真、1972年、個人蔵

04：マーク・フォスター・ゲージ《グッゲンハイム・ヘルシンキ美術館》CG映像、2014年、Image courtesy of Mark Foster Gage Architects

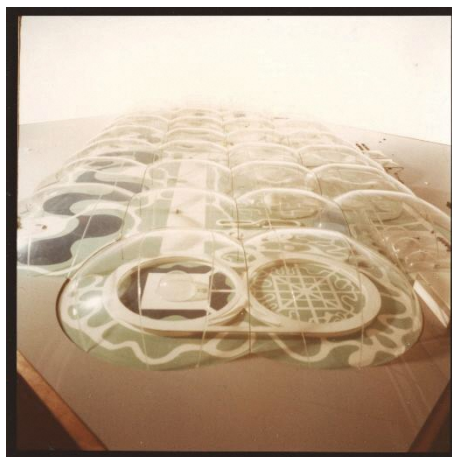
05：藤本壮介《ベトンハラ・ウォーターフロント・センター設計競技1等案》CG画像、2012年

06：会田誠《シン日本橋》紙、クレヨン、アクリル絵具、2018年、©AIDA Makoto, Courtesy Mizuma Art Gallery 撮影：宮島径



〔左〕 01：ウラジーミル・タトリン

〔右〕 02：ヤーコフ・チェルニホフ



〔左〕 03a：村田豊 〔右〕 03b：同



〔左〕 04：マーク・フォスター・ゲージ 〔右〕 05：藤本壮介



このページに掲載の画像は、全てデータでの提供が可能です。ただし、ご利用は本展をご紹介いただける場合に限ります。画像を掲載する場合、前ページのキャプションを記載してください。また作品部分のトリミング、文字載せなどはしないようにお願いします。

06：会田誠

「インポッシブル・アーキテクチャー もうひとつの建築史」

開場式取材・チケットプレゼント・記事掲載申込書（FAX 専用）

FAX 送信番号：025-228-3051 新潟市美術館宛

- ◆開場式（4月12日午後2時～）の取材、記事掲載時の作品写真（画像データ）及び読者プレゼント招待券を希望される方は、本用紙に必要事項をご記入の上、FAXでお申し込みください。
- ◆本リリースならびにチラシに掲載の画像は、すべてデータで提供可能です。ただし、ご使用は本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆記事内容は必ず事前に確認させていただきますよう、お願いいたします。
- ◆チケットプレゼントの提供は1媒体につき10組20名様を上限とし、本展をご紹介いただける場合に限りさせていただきます。
- ◆読者プレゼントの宛先は貴社とし、抽選、当選者への発送は貴社にてご手配ください。当館から当選者への発送はいたしません。
- ◆掲載された媒体は、1部ご送付ください。

○をおつけください	取材希望 ・ チケットプレゼント希望 ・ 記事掲載希望
貴社名	
ご担当者名	
ご連絡先	
ご住所 (チケットプレゼント送付先)	〒
メールアドレス (データ送付先)	
媒体名	
取材予定日	4月12日開場式・開場式以降 (月 日 時頃) ・取材予定なし
取材スタッフ	計 名 (内カメラクルー 名)
掲載・放映ご予約日	月 日
チケットプレゼントご希望	組 枚 *1媒体につき10組20名様まで
通信欄 (画像のご希望等)	